

①児童生徒の学習意欲を高める課題の工夫

問題解決的な学習のプロセスの重視

◆児童の自分の生活を見つめ、児童自身が課題を発見したり、「なぜ?」「どうしたらいいのだろう?」と課題解決に必要な感を持ったリ、「やってみよう!」という自分の目標を明確に持てるよう課題設定と提示の工夫が大切です。

例) 内容C「よごれ撃退! クリーン大作戦」とD「環境」との関連

▲【学習課題】 そうじのしかたを工夫しよう!



なぜ考えないといけないの?

課題の発見

課題解決の必要感

目的の明確化

【改善例1】

日々のそうじで集まったほこりを画像で見せて「毎日そうじをしても、なぜほこりが出るのだろうか?」



だれもゴミを出していないのに、どうして?

【改善例2】

ほこりをデジタル顕微鏡で拡大して「ほこりは何からできているのだろう? そうじをしないで、そのままにしておくとうなるかな?」



ほこりには服から出た繊維や髪の毛も入っているよ。そのままにしておくとういけいなそうじをしないといけいない

【改善例3】

校内の汚れ調べをして「どんな汚れが見つかったかな? その汚れを取るには、どうしたらいいのかな?」



汚れにも種類があるんだな。どうしたらきれいになるのかな

◎【学習課題】

そうじの必要性を考えよう
~どのようなそうじをすればいいのか考えよう~

◎【学習課題】

そうじは大切!
~部屋をきれいにするためのそうじのしかたを考えよう~

◎【学習課題】

汚れを取るには?
~汚れにあったそうじのしかたを考えよう~

児童の学びに向かう力を刺激するために、ICTを活用したり実際に見たり触れたりする活動を取り入れましょう

②考えを広げ深める対話的な学びの充実

◆自分の課題について情報を収集し、他者と話し合い、様々な角度から考え比較・検討して判断すること、発表し合い課題を共有すること、次の課題を明確にすることが大切です。

対話的な学びを充実させる活動の流れ

話し合う観点を明確にする

自分の考えをもって話し合う

根拠を明確にして説明する

他のグループの発表を生かして再検討する

自分の生活に生かす

環境に優しいそうじのしかたについて、自分達で実験したことを発表しましょう。その情報を生かし、自分の計画を見直しましょう



油汚れを落とすにはお湯でつけ置きしたらどうかな

水あかの汚れは、古い歯ブラシでこすると良いのでは

実験・実習の結果や図表やグラフ等を用いて

オレンジの皮でこすると、油汚れが落ちるよ
酢を薄めてかけると水あかが取れやすくなるよ



改善点はワークシートに赤ペンで記入する等

教師の問い返しやゆさぶりで考えを深める
落ちにくい汚れには洗剤をたくさん使えばいいのでは?

環境に優しいそうじをして、落ちない時は重曹を使う



そんな方法もあるんだね。友達の実験結果や発表を生かした計画にしよう!

実感を持った理解を深めるために実践的・体験的な活動を工夫し、それを基に言語活動を充実させましょう

③学びを自覚し、次につなげる振り返る活動の充実

◆「目標」に応じた有効な方法で学びを振り返らせましょう。多様な方法の中から、「本時の終末」や「題材の終末」に効果的な「振り返り」を選び、設定しましょう。

書く活動や自己評価・相互評価を取り入れる

「わかったこと」「できたこと」「もっとできるようになりたいこと」「友達の考えで参考になったこと」「自分の考えが変わったこと」「友達のよかったところ」「新たな課題や疑問」「これからの生活でやってみようこと」「家族に教えたいこと」等
例) ・キーワードを使って ・図表で ・小さい子に説明するとしたら ・〇〇の立場で

汚れに適した方法や道具を使い、環境に優しいそうじをしたいいろいろな所もそうじしたいな

わかったことやできるようになったことが、活用・転用できるかを見る問いや実習を行う

汚れたらすぐにそうじする



「できる自分」へと成長していることに気づき、これからの成長について展望できる場を取り入れましょう